

アメリカでは、今年は 5 月 30 日が「メモリアル・デー」であり、軍務に就いて亡くなった多くの方々の犠牲を偲ぶ日となっている。その起源は、南北戦争後の時代にまでさかのぼる。この日は、戦争を祝うわけではなく、命を落とした人々を追悼し、250 年近くにわたり自由の名の下に支払われた大きな代償を認識する、年に一度の祝日、戦没将兵追悼記念日であるのだ。

私たちが何かを記念する際、そこには様々な形が存在する。建物、道路、図書館、公園、病院の病棟など、地域や社会に計り知れない貢献をした人物の名前がつけられる場合もあれば、創業者の名を冠した企業もある。また、墓石や墓標などは、人生の幕を閉じた大切な人の記念ともなる。

ある教会では、亡くなった大切な信徒を偲ぶため、教会の教壇や献金皿にまで名札を付けていたという話をある講演者が話していることも聞いたこともあるが、ウィルソン夫人の献金皿に献金をするシーンを是非想像してみたい(彼女が喜んでくれているといいのだが)。

このような記念行事や記念碑などには多くの目的が存在する。人々の思い出を後世に残したり、重要な指導者に対する最後の感謝のしるしであったり、または大切な家族に対する愛の表現としても用いられる。そしてこの記念が、私たちの歴史における重要な出来事や遺産(伝統)とのつながりを保たせることもできるのである。

聖書には、神が過去に私たちのためにしてくださったことを決して忘れないようにという励ましが何度も書かれている。例えば、新約聖書のヘブル人への手紙において、「生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。」と宣言した後、「光に照らされて後、苦難に会いながら激しい戦いに耐えた初めのころを、思い起こしなさい。…ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりません。それは大きな報いをもたらすものなのです。」と、私たちを訓戒してくださっている(ヘブル 10:31-35)。

この箇所は、私たちの多くにある非常に一般的な傾向一、つまり、現在の苦難に直面すると過去に起こったことを忘れてしまうということを示唆している。イエス・キリストに従う者にとって、イエス・キリストが過去になされたことを思い起こすことは、イエス・キリストが今何ができ、また将来お出来になるかを確信するためにも重要なことなのである。

旧約聖書には、記念碑に関する記述がいくつも存在する。イスラエル人が、何世紀にもわたってエジプト人からの奴隷状態に解放されて間もなく、神は過越の祭りを制定し、「この日は、あなたがたにとって記念すべき日となる。あなたがたはこれを主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠のおきてとしてこれを祝わなければならない。」(出エジプト 12:14)と述べた。

他にも、聖書の中で最も有名な記念は、イエスが裏切られ、裁判にかけられ、十字架にかけられる直前に、弟子たちと共に過越祭を守っていた時ではないだろうか。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」(ルカ 22:19)。今日に至るまで、世界中のキリスト信者は、私たちの罪のために犠牲となったキリストの死を記念するため、この聖餐式を行っているのだ。

私たちも、それぞれの職業人生や個人的な歩みの中で、大切な人や出来事、そして何より神が私たちのために何をしてくださったかを思い出すため、自分なりの特別な記念を作るのもよいのではないだろうか？

【適用】

1. 「記念」という言葉を聞いたとき、あなたはどのようなことを思い浮かべますか？
2. あなたが住んでいる地域や職場で、重要な指導者や歴史上の人物などを記念して名づけられた建物や記念碑がありますか？そのような記念碑の利点があるとすれば、それは何だと思いますか？
3. 私たちが日常生活を送る中で、将来にも残しておくべき過去の重要な人物や出来事、または過去からのマイルストーンを見失ったり忘れてしまう要因は何だと思いますか？
4. 神様があなたの人生にしてくださった、過去や最近の出来事を思い出すために何か記念のものを作るとしたら、それはどんなものでしょうか？また、それは何を意味するでしょうか？

【参考聖書箇所】

出エジプト記 39:6-7; 申命記 4:9-11; マタイ 26:26-29; ルカ 22:14-20; I コリント 11:23-26